

令和4年度 伊那北高等学校 評価表

教育目標		中・長期的目標	
1 平和を希求し、真理と正義を探究する資質を養う。 2 躍如として学業にいそむ。 3 自主・自立の精神を養い、個性の伸長をはかる。 4 自由と責任を重んじ、努力を惜しまない態度を養う。		1 学習・部活動などに主体的に取り組み、将来を自ら切り拓く力をもった生徒の育成をめざす。 2 地域の実情、要望を正しく理解し、伊那北高校の将来を見据えて施設・設備を含めたビジョンを明らかにする。	
		重点目標	
		1 「いじめ・体罰」のない安心安全な教育環境を整え、一人一人が輝く学校にする。 2 チームとして3つの方針に沿った授業実践と教育課程の進化を目指す。 3 100年の歴史を礎に、地域社会と協働し持続可能な社会・学校づくりを目指す。	

領域	対象	重点目標	評価項目	評価の観点	具体的方法	主な評価材料	成果と課題	改善策・向上策	関係校務分掌
教育活動	進路・学習に関わる指導	2	進路意識の醸成	生徒自ら課題を見つけ積極的に取り組み、進路に対する意識を高めることができるような機会の設定、情報発信等を行うことができたか。	・総合的な探究の時間、理数探究基礎、課題研究、生徒会活動、部活動等において、生徒が自ら課題を見つけ活動し、発信する取組みが行えるようにする。 ・外部と連携しながら、体験活動、講演会等の機会を設定し、積極的な取組みを促す。 ・体験活動や、外部講師を招いての講演会実施が困難な場合、それに代わるオンラインを利用した機会を設定する。 ・進路に関わる資料や冊子等を、精選した上で配布し、進路意識の醸成を図れるよう活用する。 ・オンラインオープンキャンパスやオンライン大学説明会等の情報についても、精選した上で発信していく。	生徒アンケート	・総合的な探究の時間、課題研究の時間が通常の時間割の中に入って3年、探究活動の指導が洗練されてきた。生徒アンケートの結果では9割を超える生徒がこれらの活動を好意的に受け止めていることが分かった。また、外部からの評価も高い。 ・生徒会活動については、感染症対策を講じながら、厳しい状況の中でできる限りの活動、前例にとられない新しい活動を行うことができた。 ・昨年度に引き続き、コロナ禍において、体験活動の実施が困難だったが、感染が拡大した状況を想定した対応ができた。講演会は、オンラインで代替可能なものは実施したが、今後も対面での実施が困難なものについては、オンラインでの代替可能性、実施をするかしないかを柔軟に検討していく。	・学外における生徒による発信の機会を増やすために、地域や他校との連携を深めていきたい。 ・講演会や研修会については、目的に応じて対面とオンラインを使い分けながら実施したい。 ・進路に関わる冊子や資料だけでなく、オンラインでのオープンキャンパスや大学説明会等の情報についても積極的に発信する。 ・生徒会行事だけでなく、日々の生徒会活動においても生徒が課題を見つけ、解決策を探究できるよう促していく。	進路学習指導
		2	進路実現	進路指導計画を作成し、生徒・保護者の納得できる進路指導を教員間で連携しながら行うことができたか。	・伊那北高等学校としての進路指導方針について、教員間で共有し、生徒・保護者への丁寧な説明を行う。 ・生徒・保護者との連携を深め、生徒が自己の進路志望を明確にできるようにする。 ・第一志望の進路実現に向けての計画を作り、実現できるようにする。 ・定期検査や外部模試、昨年度の共通テスト等の結果を分析し、課題を共有し、授業や補習の機会を通じて生徒に還元する。	成生保護者アンケート(満足度)	・様々な場面において、伊那北高等学校としての進路指導方針について、教員間で共有を図り、生徒・保護者へ説明することができた。 ・授業評価アンケートで、生徒からの自由記述について、建設的な意見が得られるよう工夫を図った。定期検査や、外部模試などの結果を分析から、上手くいったこと、上手くいかなかったことについて分析を行ってきた。これらを教科内、教科間で共有したことで、より良い授業を設計することが可能になった。さらに、そのより良い授業方法を教員間で共有することによって、学習効率が向上した。	・進路指導方針の共有、個々の生徒に対し職員全体で指導に当たる体制、模試の意義について積極的に生徒へ周知を図ること、事後指導は継続していく。 ・共通テストに関する分析を教員間で共有し、次年度の授業や定期検査の改善を図る。また、新入試に対して継続的に情報収集を行い、対応できるようにしていく。	進路指導
		2	授業改善	・授業評価や学力分析を通して授業改善を行うことができたか。 ・解りやすく学習意欲を高める授業の工夫ができたか。 ・教科内連携、教科間連携による授業の効率化が図れたか。	・校内外に向けて授業を公開するなどして研修を行い、教材や授業の共有を進める。 ・授業評価の結果得られた課題を明らかにし、改善に活かす。 ・ICTを活用して、①授業内容の改善を図る。②授業の効率化を目指す。③生徒による自学自習の便宜を図れるよう工夫をする。④個人タブレットの有効な利用方法を研究する。 ・総合的な探究の時間や課題研究の時間を教科間連携の強化の場として活かす。	授業評価	・直接の公開のみならず、ICTを利用して、校内外に授業内容や総探・課題研究の発表を公開することができた。また、他校や地域の人々から頂いた意見を学内で共有することで、教科内・教科間の連携が深まった。 ・授業評価アンケートの方法を電子媒体にして3年、生徒からの多くの自由記述を参考に、教科内・教科間で「より良い授業」の模索を行うことができた。学習指導係内での分析も進んでいる。 ・スプレッドシートを用いて、総合的な探究の時間や課題研究での実践を教員間で共有することができた。教科内連携・教科間連携の強化にも応用できた。	・コロナ禍も取りつつある中、リモート技術の有効な活用法をさらに模索したい。 ・「より良い授業」を実現するカリキュラムマネジメントの体系化を進めたい。 ・個人タブレットの活用法の研究をさらに進めたい。	学習指導
		2	家庭学習指導	授業を中心にすえた家庭学習が行える生活習慣を定着させることができたか。	・適切な課題量、適切な課題内容を全体で検討し、3年間を見据えた体系的な家庭学習を検討し、学内で共有する。 ・予習復習や課題への取組みについて点検し、個人面談などをとおして適切な指導を行う。 ・「学習計画」を作成させることで、計画的な学習を促し、家庭学習の充実を図る。	学習計画	・学年内、係内での課題量の調節を検討することができた。このように昨年度に引き続き、学内に「適切な課題」の検討を行う機運が高まってきた。 ・担任による個人面談を行うことで、家庭学習の指導を行うことができた。 ・首都圏の有名進学校の視察を行い、学習計画の有効な立案方法を研究した。研究内容は係内で共有することができた。	・カリキュラムマネジメントの一環として、適切な課題量の検討を学校全体で行ってほしい。 ・学習計画の実践方法を各学年、学校全体で検討したい。	学習指導
		2	読書指導	・読書活動を活発にすることができたか。 ・主体的・自発的な学習を支えることができたか。	・LHRを利用した「読書の時間」を実施する。 ・読書の楽しさや意義を共有するため、本と情報を提供する。 ・授業・探究学習・課題研究・クラブ活動等との連携を深める。	図書書出数・利	・図書館において、本や読書についての生徒からの情報発信や生徒同士の交流の場を設けることができた。 ・探究学習と図書館の連携を深く持つことができた。本年度は図書館を利用して、総合的な探究の時間で民俗学の研究手法を実践できた生徒もいた。	・文献調査、アンケート調査、インタビュー調査、フィールドワークなどの研究・探究に不可欠な手法の研究において、探究担当と図書館の協力をさらに進めて、その成果を生徒に還元したい。	学図書指導
学校生活に関わる指導	生徒の健康	1	生徒の健康	関係職員・スクールカウンセラー・SSW・子ども相談室等の外部機関・家庭が連絡を密にとり、生徒それぞれの状況に応じた適切な対応をとることができたか。	・小規模の会議から職員会まで、臨機応変に情報交換会を設定し、生徒の状況について情報共有をする。 ・スクールカウンセラーや外部機関等との連携を図る。 ・職員研修会を通じて、職員の知識・理解をさらに深める。	職生保護者アンケート	・小規模の会議から職員会まで、情報交換をする機会を設定し、生徒の状況を共有することに努めた。 ・スクールカウンセラーや外部機関との連携を積極的に図った。 ・今年度は職員研修会を年度当初の放課後に設定した。多くの職員が参加し、外部機関と連携した支援について理解を深めることができた。	・継続してこまめな情報共有を図り、生徒支援につなげる。 ・校内の支援体制を強化する。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、医療機関等外部の専門機関とも積極的に連携をとる。	特生推定進支相談員教育
		1	安全	学校生活における生徒の安全管理について徹底ができたか。	・感染症対策も含め、自他の健康について適切に管理し改善していくようにする。 ・学校行事や生徒会行事を運営する際、感染症への対策と安全面でのアセスメントを徹底し、事前チェックと生徒の指導及び当日の危機対応を行う。 ・交通安全および盗難予防指導の実施について、生徒の自覚を促す指導と保護者への理解と協力を図りながら実施する。	生徒・保護者アンケート	・健康診断の結果や社会の状況を見ながら、放送や保健だより等で伝えることができた。 ・文化祭等において、感染症対策だけでなく熱中症対策等についても各部署担当顧問及び生徒会役員と事前のシミュレーションを念入りに行い、チェック体制を構築した。当日の対策も含めて安全面からも健康面からも危機対応ができたことと考える。ただし、行事後に感染が拡大したこともあったので生徒同士の会食などの注意を呼びかけをして感染症対策の意識を高めていきたい。 ・今年度の盗難被害は報告がなく、昨年から指導が一定の成果をあげたと考える。一方、交通安全に関しては基本的な交通マナーは悪くないものの、自転車事故が多く発生してしまった。傾向としては、登校時に新入生による単独事故の割合が多いため、特に新入生に向けての初期指導が重要と考える。	・健康状態の改善等は来年度と比較する必要がある。必要に応じて検討したい。 ・生徒会諸行事における実施内容の見直し等も含め、前例に囚われず、生徒の健康・安全管理を担保した上でより充実したものになるよう検討を加える。 ・自転車ヘルメット着用義務化に合わせて、校内でもヘルメット着用を指導していく。さらに、新入生に向けての安全運転指導を重点的に行う。	生学推定進支相談員教育
		1	環境	校舎内外の美化などが推進されたか。	・全校でごみの分別、減量に努める。 ・日常の清掃の徹底と点検を行う。 ・部室周辺及びトイレ清掃を徹底し、衛生管理を心がける。 ・教科ごとに実施している環境教育の体系化を努め、推進するように具体的手段を検討する。 ・全校で電気・水道使用量の節減に努める。	清掃員アンケート	・日常の清掃活動状況は概ね良好であるが、トイレや目の届きにくい箇所については徹底できなかった。清掃用具の整備、モップのクリーニングを実施した。 ・生徒会と協力して、年に4回(部室移動)部室清掃を実施した。今後も部室を含め校内の美化に努めたい。 ・ゴミを扱う作業は感染リスクが高いため、今年度も例年のような美化活動は行えなかったが、環境整備活動を通して美化への意識向上させる方を考えたい。 ・水道使用量は概ね例年並みであった。電気使用量は、エアコンの稼働もあり前年比で10%増となった。引き続き節電に努める。	・今年度、校内美化活動(木床ワックス掛け等)を計画・実施した。次年度は感染予防に配慮しつつさらなる校内美化に努める活動を行いたい。また、校外美化活動についても、感染症対策をして再開を検討し、登下校時など日常的な美化意識と地域共生意識の向上につなげていきたい。	委清掃・ト・学長野口衛担当エコメ推進
地域との連携	中学校情報、地域への	3	中学校情報、地域への	中学生及び保護者、地域の方々への教育活動について理解を深めてもらうことができたか。	・土曜授業公開、入学者選抜説明会(保護者向け)、中学生体験入学を実施する。 ・中学校訪問の実施、視察の受け入れ、中学生向け進路講話への対応を積極的に行う。 ・教育内容が深く伝わるよう、学校案内をより充実させる。 ・リニューアルしたHPを有効活用し、内容の随時更新を心がけ、学校のさまざまな情報を発信する。また生徒・保護者には、必要な情報を一斉メールにより配信する。	ア来校者への	・土曜授業は、中学生とその保護者へ1回公開し、227名の参加があった。本校を知ってもらうよい機会になった。その他の予定していた4回の公開はコロナ感染防止のため中止せざるを得ず、本校の保護者には1回も公開できず残念であった。しかし、総合的な探究の時間発表会と課題研究発表会には、多くの保護者等の参加があった。 ・体験入学は472名の中学生の参加があり、体験授業は好評であった。 ・学校生活便りは更新頻度が増し、学校の様子を伝えることができた。情報発信の即時性と偏りなく発信できるようにすることが課題であると考えられる。	・来年度は原則土曜授業がなくなるが、土曜実施のPTA総会の日に保護者に授業公開できるように計画する。 ・原稿作成から回覧をする順序を見直し発信までの工数を減らす。 ・原稿作成からHP掲載までの流れと役割を見直し、迅速にアップロードできるように再構築する。	教務
		2	学校ビジョン	・高校再編等も踏まえ、これからの地域の実情に基づいた、学校ビジョン、教育課程について検討することができたか。 ・大学入学共通テストや学びの基礎診断に対して、対応できる教育課程の検討がなされたか。	・高校再編のスケジュール等を踏まえ、将来構想検討研修会を開くなどして多くの職員からの意見を聞き、合意形成に向け議論を行う。 ・本年度入学生より実施されるカリキュラムについて、職員間での情報共有を行い、円滑に実施していくとともにブラッシュアップを図っていく。 ・今後も大学入学共通テストについて情報収集や研究を進める。特に入試科目・内容の情報を収集して、入試に対応した教育課程の検討を行う。また、あらゆる進路に対応した新しい教育課程の検討を行う。	将来で像の検討意見見集修約	・第1回将来構想検討研修会で新コースについての意見交換を実施し、職員間での一定の理解や合意形成が進んだ。また、研修会で出た意見をもとに1学年向けのコース選択説明会を行った。 ・昨年度に引き続き、本校の現状及び大学入試を踏まえたカリキュラムの検討を行い、教育課程の手直しを行った。 ・進学に対応した単位制について、視察及び第3回将来構想検討研修会で共有、意見交換を実施し、職員間で一定の理解が進んだ。	・来年度実際に新コースを運営していくにあたり、教科横断的な授業や教科内で行う探究的な授業についてさらに研究を深める。 ・共通テストは今年度で3回目となり、新指導要領に基づく入試についても徐々に全容が明らかになりつつある。学校全体で研究に取り組み、必要に応じて教育課程を見直ししていく。 ・本校の教育目標や理念等について、年度の早い段階で共有する機会を作りたい。また、教育課程についても検討を進める。	新教ビコヨリ課ノス程ノ委員員会
		1	学校評価	・学校評価システムが機能し、課題が克服されたか。	・PTA、HP等を通じて学校の重点目標や評価項目について説明を行う。 ・学校評議員会、学校関係者評価などを通じて頂いた評価について、改善すべき点等検討を加えフィードバックし、その改善・実現に向け全職員で検討していく。	学ケ保ト者への	・生徒、保護者、学校評議員対象の「匿名性を担保した学校評価」を実施することができた。どの項目においても高評価をいただいた。 ・学校評議員の方々から、様々なご意見、提言をお聞きすることができた。 ・昨年度からFormsによる回答をお願ひしているが、回答回収率の向上が課題。(生徒回収率61.1%、保護者回収率58.8%)	・生徒や保護者、学校評議員から頂いた評価について、改善すべき点等検討を加えフィードバックしていくことにより、本校の教育活動の向上へと繋げていきたい。	学委員評価